

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390800185		
法人名	有限会社 あい		
事業所名	グループホーム大道		
所在地	山鹿市方保田828-2		
自己評価作成日	平成28年3月8日	評価結果市町村受理日	平成28年6月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成28年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

普通の暮らしの中で、その時その時を大切に利用者、ご家族と共に「大家族」「第二のわが家」を目指していきます。
 いつでも利用者の気持ちや意向を確認しケアに活かします。自分らしく暮らせる、無理をしない暮らし、各自のペースで過ごすことができるホームです。
 出会った方々とのご縁を大切に利用者、ご家族、スタッフ同士がお互いの存在を認め合い「よい時」を過ごすことが出来ればと考えています。
 地域参加型の行事やイベントも継続して企画、実行していくことで地域にとっての「なくてはならない場所」になれることを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を着実に実践するために、利用者・家族・地域に対して職員の姿勢はどうあるべきかを毎年度全職員で見直し、サービスの質の向上に努めている。職員は利用者の声にじっくりと耳を傾けることで、思いを把握してきめ細やかなケアを行い、利用者が自分らしい生活を送れるよう支援に努めている。また、施設長初め職員全員が、強固な信頼関係を軸にして思いを一つにしながらかケアに当たっていると、地域に溶け込む努力を重ねることで、地域住民のホームや利用者に対する理解が深まり多様な協力を得ることに繋がっている。職員は「まだまだ何か出来る」という向上心を胸に抱きながら、利用者の笑顔をエネルギーに変え伸び伸びと働いていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で開設の時に理念を作成した。年度毎に見なおす機会を持ち納得できる理念のもとケア提供につとめ、スタッフそれぞれが日頃のケアを振り返る基準になっている	「であい・ふれあい・支えあい・慈しみあい」という理念は、全職員が「このようなケアをしたい」という思いの下で、日々行われるケアの基本となっている。理念を実践するにあたり、利用者・家族・地域に対して職員自身が「どのようにあるべきか」という視点に立ち、全職員で毎年度自らの言動を振り返って文言を見直し共有している。利用者・家族・地域への関わり方から、理念が実践に反映されている事が、感じ取れた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区役や初寄り、神社の掃除、スポーツ大会などの地域の行事への参加を継続している。ホーム主催でシールラリーや秋祭りを実施することで地域の方からも楽しみにしているとの声を聞くことが増えて来ている	ホームが主催して、シールラリーや秋まつりを実施している。シールラリーでは、地域住民が大切にしてきた神社などがコースの中に設定されている。秋まつりでは、県の「くまもと里モンプロジェクト」の助成により復活した「馬見塚音頭」を披露するなど、利用者・家族・地域住民が楽しく交流している。その際、利用者が主役になれる工夫を各催し物に盛り込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	予防拠点事業の際にはホームの利用者や地域の方々と同じ時間を過ごし触れ合う機会となっている。啓発活動として「認知症の方との関わり方」等をテーマに劇などを開催してはどうかとの声があがっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動報告を写真やDVDを見て頂くことや敬老会や避難訓練等の実際の活動への参加をお願いすることでより具体的な状況を理解いただいている。また、そこでの意見を確認しサービス向上に活かしている	運営推進会議は、老人会長・区長・福祉協力員・行政・利用者・家族代表等の参加を得て実施している。ホームの活動状況を写真やDVDで分かり易く説明しており、委員は行事に参加する事でホームに対する理解を更に深めている。警察官による、多発している詐欺に対する注意喚起や、利用者家族の看取りの経験談など、身近な話題も多い。些細なことでも良いからと発言の機会が広く与えられ、活発な意見交換が行われている。ホームの各種イベントに於いても、委員による積極的な協力が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問や確認事項があった際には、その都度相談している。運営推進会議の参加や行事のボランティアとしても協力を頂ける関係を築くことができる。	法の改正に関する事や書類の記入方法など、不明確な点は市担当者に電話やメールで尋ねる他、直接出向いて確認している。事業所のイベントに市職員が自らボランティアとして参加したり、互いに忌憚のない意見交換を行っている事から、日常的に協力体制が築かれていることが伺われた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束をしないケア」を基本にケアを行っているが言葉の抑制等についても振り返りを行う習慣をもっている。	夜間以外は玄関などの施錠は行っていない。職員は、利用者がホームの外に出たがっている気配に気付いた際は、同行したり背後から見守るなどの対応をしている。顔なじみの地域住民や郵便配達員が声かけをするなど地域の協力も得られている。職員は言葉による抑制について随時振り返っており、日頃から意識して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について勉強会などの実施を行い、スタッフの精神状態等に配慮している。ケアにゆとりが持てるように勉強会の実施やチームケアを大切にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や自立支援事業についての勉強会が不十分である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関しては時間をかけて見学や検討して頂く機会をもっている。また法改定の際は年に1回の家族交流会に合わせて口頭での説明を加えご理解いただいている。面会時にも随時質問や相談を受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口の設置はもちろんだが、常に本音を言える関係づくりをモットーにしている。	年1回開催する家族交流会や新年会などで、家族の意見要望を聞き取る機会がある。また、面会の際や「大道たより」の送付で利用者の状況を詳細に報告し、家族の安心に繋げている。利用者・家族は本音を100%吐露出来ていないとの認識に立って、緊密な信頼関係作りに努めている。「外で新年会をするのもいいね」という家族の意見を取り入れて、今年の新年会は山鹿市内のホテルで開催し、好評を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の全体会議を事業所で行いスタッフとケアの確認や業務の事などを話す機会となっている。本社での運営会議に管理者が参加し、スタッフの会社への要望等はそこで報告し検討できる	管理者は、毎月開催の全体会議だけでなく、日常業務の中でも職員の意見や提案を積極的に受け入れている。職員は現状のケアに満足することなく、「まだまだ何か出来るはず」との思いで、会議で詳細にサービス内容を検討し、質の向上に繋げている。施設長・管理者・職員の聞き取りの内容の随所から、強固な信頼関係が築かれている事が伺えた。それが結果として職員の意欲を高め、仕事のやりがいと楽しさを生み出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を含め職員の頑張りには日頃から感謝を伝えています。人材不足の中ケアの質を維持しながらスタッフ自らも喜びを感じているように思います。勤務体制についての話し合いを行う予定です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材不足の中でも法人内外での研修に参加できている。今年度はグループホーム全国大会徳島にスタッフ2人が参加。またスタッフの取り組みが徳島で表彰を受けた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所からの実習を受け入れていることで同業者同士の交流する機会になっている。また、行事の時はボランティアとして協力しあっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まったら数回の訪問を重ね出来る限り本人との顔馴染みの関係が築けるようにしている。また入居前の情報を集め安心できる環境を整えている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者と数回の訪問に合わせご家族とも話しをする機会を多くもつようにしている。その都度心配ごとや不安が無いかの確認を行っている。入居時は記録や連絡ノート等でスタッフ間の情報を密にしているが不十分な場合もある		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の際に当ホームでのサービス提供が妥当でない場合やすぐに入居できない場合が多いのでサービス事業を紹介する等の必要な対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大家族を目指しており個々の役目を大切にしている。ホームでの大黒柱としての役割など各自の年齢や性格に応じた役目を担って頂く機会もある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化時にはこまめに報告を行うことや行事や交流会の際にもご家族の存在は絶対であることを伝え続けている。(ご家族もスタッフも本人を支える上で大切な存在であること・スタッフだけでは本人を支えるには不十分であること)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所への外出や行きつけの美容室の継続、友人との連絡等をこまめに行う様にしている。同級生との旅行へ出掛けられたり、ターミナルになる際に御家族の了承を得友人やなじみの方々からの面会等も多い	入居前に「大切な人・好きな場所・会いたい人」などについて、利用者・家族の聞き取りを行っている。入居後に日常の何気ない会話から新たに馴染みの人や場所を把握することもある。帰宅・行きつけの美容室の利用・孫の結婚式への出席・友人との旅行・兄弟の葬儀への参列など、家族・友人・職員の協力で馴染みの場所や人との関係を継続する支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で励ましあったり亡くなられた際には葬儀に自ら参列の希望があったりした。個性や性格を尊重しさりげない支援をしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時にはこまめに面会に行き必要時には食事介助を行ったりする。また、亡くなられてからは回忌のお参りに伺うことや行事の案内をしている。また運営推進会議にてご家族からの看取りの経験談を話して頂いた		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や表情やしぐさで思いや考えを察し意向の把握に努めている。本人を含めてカンファレンスを実施している	利用者の話にじっくりと耳を傾けるなど「待つケア」が実践されている。また、表情や仕草の微細な変化を察知して、意向の把握に繋げている。帰宅願望のある利用者に関しては、受け入れる家族の事情や状況を確認し、良好な関係性を引き出すような対応に努めてたり、花の好きな利用者の為に花壇を作るなど、利用者の思いに沿う支援が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からこれまでの暮らし方などを尋ね記録に残し共有している。また入所後も継続して情報収集に努めている。関係性を築いていく中で新たな情報を得ることも多い		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中での気づきや変化を大切に本人の言葉等も加え記録に残し情報の共有を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に各担当スタッフの情報や日頃の経過記録からの情報を集約しケアプランを作成している。各担当者がモニタリングやアセスメントを実施することを検討中	介護計画作成担当者を中心に、日常の観察や個別の経過記録などから詳細に情報を収集し、利用者・家族も参加するサービス担当者会議でプランを検討している。利用者・家族の意見を反映した本人本位のプランを作成することを心がけている。今後はアセスメントとモニタリングを各担当者自身が行う方針であり、それによって気づきが深まる事で更なるプランの充実が期待される。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな気づきや本人の言葉、表情も大切にらえ経過記録や連絡ノート等を活用し情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	課題があった際には出来る限り実現できないか検討し取り組んでいる。孫の結婚式や兄弟の葬儀の参列等、本人の役割を果たすための支援をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人にとってのなじみの場所への外出や図書館、美容室等への外出の支援をしている。美容実と連携し送迎のみでおひとりカットの時間を過ごされることもできるようになっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々のかかりつけ医を継続することを基本としている。ターミナル期になった際には往診をして下さる医療機関が少ない現状があり主治医変更をすることもあった。受診時、情報提供書を作成したり、連携室の活用も行う	利用者・家族の希望を尊重し、基本的に入居前のかかりつけ医を継続している。終末期に入ると、家族の了解を得て往診可能なかかりつけ医に変更する事もある。受診の同行者は家族が基本であるが、困難なケースでは職員が付き添うなど、柔軟に対応している。受診時に情報提供書を作成したり、看護師や医療連携室に利用者の現状や相談内容を事前に知らせるなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや変化をこまやかに情報共有し、助言、指示をもらっている。また日頃より相談した内容等も経過記録に残しスタッフ間での情報の共有を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームでの様子はサマリーとして情報提供することが多い。入院中はこまめに面会に伺いその時の状況を経過記録に残しスタッフ間での情報の共有を行っている。また、入院時には必ず連携室へ挨拶をし退院時の調整や主治医への相談等がスムーズに進むようお願いしておくようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年に一度の「家族交流会」の際に本人及びご家族と終末期にむけた方針や意向の確認をする機会を設けている。また利用者とも日常の会話から本人の意向について確認するように心がけている。終末期に入った場合もその都度意向を確認することを忘れないようにしている	終末期に入ると往診可能な医師の確保に尽力し、利用者・家族の意向に沿った終末ケアを行っている。家族・医師・訪問看護師・ホームが緊密に連携して利用者に寄り添う手厚い介護に努めた結果、「ここが最期で良かった」という声に繋がっており、家族が看取りに対して満足している事が伺える。看取り後の詳細な振り返りで職員は多くを学んでおり、その貴重な経験は更なる成長に結びついている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を実施しているが回数が少なく全ての職員が実践力を身につけているとはいえない。 勉強会の前には緊急通報の電話のデモを実施するようにはしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定訓練は定期的実施しているがその他の訓練は防災炊き出し訓練を一度地域を含め行ったのみである。火災の時の消防団や近隣との連携は取れているが数を重ねた訓練は不十分である	避難・通報・消火の総合訓練を、利用者も参加して定期的実施している。災害時には、各部屋の床まである大きな窓から直接避難できる構造となっている。運営推進会議のメンバーも参加した訓練を実施する他、消防団員の連絡先を把握しており、近隣在住の団員もいる為、協力が得られやすい状況にある。	構築された地域との連携を更に強固なものとする為に、地域を含めた訓練も継続的に実施されると更に良いと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけないような言葉かけを心掛けている。その方にあった声かけであるか、馴れ合いになり過ぎていないか振り返る様にしている。 本人の同意を得て自室に入ることやケアの決定も同様に本人の意向を大切にしている	職員は利用者に対等な関係であることを意識したケアが実践されている。各々の利用者の個性に合わせて声の大きさやトーンを変えるなど、優しい声かけや態度を心がけている。常に自己決定を促しながら接することで、利用者の意思を尊重したケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現できる方に関しては本人の意向を必ず確認することを大切にしている。難しい方は言葉やしぐさ、表情で本人の思いを感じとり意向を確認するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなくケアを優先している。外出の希望があればできる限り希望に沿うようにしているがスタッフ数の問題等ですぐに対応が難しい時には日にちや時間をずらして対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服や着たい服を本人が選べるように配慮している。好みの美容室へ出かけることを日課としている方もおられる。TPOに合わせて自身で洋服を決めたり化粧をしたりされる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の嗜好に合わせて対応している嫌いな食べ物の際には別のメニューを準備している。メニューの相談や作り方を教えていただくことや一品作って頂くこともある。台拭きや茶碗拭きなど状態に応じてお願いしている	食材を確認した上で、利用者の希望を取り入れながら一緒にメニューを決めている。「調理が不得意な職員を援助してもらえませんか」との趣旨のもと、利用者のために卓上コンロを用意し、団子汁やお煮しめなどの得意料理を作ってもらうこともある。その際の利用者の表情は、必要とされているという充実感で生き生きとしている。職員が利用者と同じ食事を摂りながら会話している風景は、家庭的で温かみを感じられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方には水分チェック表を用いて確認している。食事の摂取量が少ない場合には好まれる物を代用しバランスを整えている。きなご飯やバナナを好まれることが多い		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人差があり本人の気持ちに合わせてケアを行うようにしている。口腔ケアの大切さを説明してはいるが難しい場合も多い。定期的に訪問歯科を依頼することもある		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情やしぐさを見ながら排泄の声かけを行っている。トイレにゆっくり座って頂けるような声かけやトイレの理解が難しい方に対しては安心できる声かけと付き添いを心掛けている。必要時には排泄パターンのチェックを行っている。	昼・夜間共にトイレでの排せつを基本としている。利用者一人ひとりの状態や昼夜の状況に応じて布パンツにパットを組み合わせ対応している。職員はトイレ誘導時に声かけを行うことで、排泄の自立支援に努めている。トイレは利用者と職員が共同で使用しているため、常に職員の目が行き届き清潔が維持されており、快適な排泄環境となっていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	嗜好に応じて手作りヨーグルト、牛乳、クロレラ、バナナジュース等を提供している。水分補給や、ホットパックやマッサージを行っている。活動量アップを勧めるもなかなか継続が難しい現状もあり課題である		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望の時間を朝から尋ね入浴が提供できるようにしている。重なった際には事情を説明し譲って頂くこともしばしばあるが納得頂くことが多い	毎日、利用者が希望する時間に入浴可能である。以前と変わって入浴を拒むようになった利用者の状況をつぶさに観察した結果、今までスムーズであった入浴の準備が、困難になった事が原因と判明し、職員と一緒に準備にあたる事で、安心感を与え改善した例もある。好きなテレビ番組が終了してから入浴したり、在宅時の習慣を維持して夜間に入浴する他、時には温泉に出掛けるなど、各々に応じた支援で入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や睡眠は利用者の生活習慣に合わせている。また、灯りや室温、湿度、リネン等の調整にも気を配っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報のファイルで確認が出来る様になっている。内服の変更がある場合には経過記録へ変更の旨を明記し、観察できるように統一している。服薬支援方法は利用者に合わせているが名前、日付、時の確認は声に出してすることを徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のやりたいこと等を日頃の会話からも引き出すようにしている。役割や生活歴の内容もプランに盛り込まれている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日帰り旅行や馴染みの場所への外出、孫さんの結婚式、兄弟の葬儀等相談に応じられるようにスタッフ皆で話し合い達成できるように努力している。	地域の人と挨拶や会話を楽しんだり、野辺の花を摘んだり、犬と一緒に掛けるなどの日々の散歩を楽しんでいる。孫の結婚式や兄弟のお葬式に参列するなどの特別な外出も、職員の同行支援により不安なく実施されている。おやつや買物や図書館への外出など個別の対応も見られ、気分転換をする多様な機会が設けられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方は自己管理をされている。移動販売やヤクルト販売、希望のお店などでお金を使う機会も多いが年々ご自身で精算される方が少なくなっている現状がある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状を続けられる方もいらっしゃる。必要に応じた支援を行う。お礼の電話やご家族の面会が難しい時には電話で話す機会を設けることもある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快なものや混乱に繋がるものは出来るだけ情報をキャッチし配慮出来るように工夫している。リビングの座席配置に関しては各々の性格等もありなかなか苦戦している現状がある	ホームの至る所に季節の花があり、壁にはほのぼのとした感じの絵が掛けられ、全体として心温まる雰囲気を出している。リビング脇の和室では、炬燵に入ったまま窓から四季折々の景色の変化を感じ取る事が出来る。リビングでは職員が進める昼食の準備の音や香りに包まれながら、おしゃべりしたり、塗り絵の本を見たり、新聞を読んだり、利用者は自由に寛いで過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広縁や談話室、静養室とあるが、完全に機能するまでには至っていないが洗濯物をたたんだり、煙草を吸う場所等お気に入りの場所が確保できている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好きな物や自身で作成した刺繍や絵、短歌等お気に入りの物を部屋に配置し心地良い空間づくりに努めている	利用者や家族によって手書きされた表札が、それぞれの部屋入り口の見易い位置に掛かっている。テレビやタンスなどを持ち込んだり、趣味で詠んだ短歌の短冊を掛けたり、お気に入りの本を好きなだけ持ち込むなど、それぞれにその人らしい落ち着く部屋作りになっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」に配慮し本人の動きをさりげなく見守り意思を尊重するように心掛けているが過剰な介護をすることもある		